

▼今回のランナー



山本憲作

やまもとけんさく●山形県米沢市出身。2001年大学院理工学研究科博士前期課程修了。株式会社本田技術研究所4輪R&Dセンター企画室に所属し、経営陣をサポート。本学非常勤講師として後進の育成にも貢献。

Yamadai SEIKA Relay



山大聖火リレー

蓄積の成果

工学部の地元米沢市で生まれ育った山本憲作さんは、大学といえば山形大学というイメージでごく自然に進路を決めた。そして「これからはパソコンの時代」と電子情報工学を専攻。将来はシステムエンジニアになるのだろうと漠然と考えていたが、同じ研究室の先輩が自動車業界に就職したことを知り、子どもの頃から車やレースを見るのが好きだった山本さんは、俄然、自動車関連の仕事に就きたいと覚醒し、「本田技術研究所」への就職を果たした。

入社して最初に配属されたのは熱機関に関する研究チーム。まったく畑違いの技術領域に取り組むことになり、一から勉強が必要ではあったが、大学時代に培った研究の一連の流れや考え方のおかげで戸惑うことはなかった。むしろ仕事の幅が広がり、専門外ならではの新鮮な視点から業務の効率化につなげたり、両方の専門性を生かして他の人が真似できない仕事ができるようになった。現在は、研究開発部門から少し離れ、企画室での経営陣のサポートを業務とし、世界を飛び回って仕事に取り組んでいる。どんな場面にも臆することなく対応できているのは、学生時代に企業との共同研究やアルバイト等を通じて身についた大局観とシステム思考によるもので、会社に入ってからどんな業務にも大きく役立てられている。

「社会に出ると自分の想像を超えた出来事が降りかかって来る。そんな時にこそ試される真の実力。どれほど学びの“型”を身につけてきたか、人に聞いたりネットで見ただけの“情報”ではなく、自分で考えて意思を入れた“知識”を持つことができているかが重要になる。きちんと自分で考えて決断できるようになれば、大学生活は有意義になります。振り返った時、よかったと思える学生生活を!!非常勤講師でもある山本さんからより多くを吸収したいところだ。



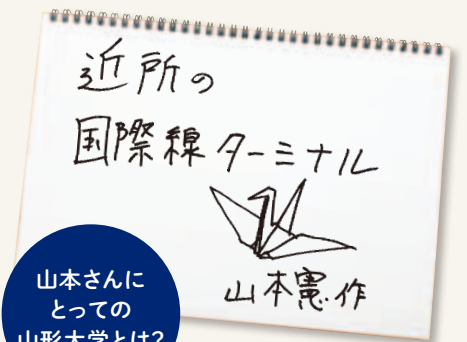
現在は HONDA という国際線ターミナルから世界へ。これは北米に出張した際に工場で撮影した一枚。

自分の意思を込めた「知識」で物事を決断し、時代や立場の変化にも臆することなく颯爽と。

山本憲作 本田技術研究所 4輪R&Dセンター企画室



出張中のアメリカにて、現地スタッフと実施したワークショップでのワンシーン。軽妙なトークを展開する山本さん。



山本さんにとっての山形大学とは?